

一般質問



川下 議員

○児童生徒の健康を守る熱中症対策と学校における給水環境の整備について

【質】地球温暖化で夏場の猛暑が常態化する中、子どもたちが持参する水筒だけでは容量や保冷の限界がある。熱中症予防の観点から、噴水タイプではなく水筒を置いて注ぐタイプの給水装置を市内全小中学校に設置することが必要と考えるが、給水環境をどのように認識をされているか伺います。

【教育長】空調設備により教室の室温を管理しており、児童生徒の健康観察、適切な水分補給の指示、適度な休息などに配慮し、児童生徒自らの体調を把握するための保健指導も行っていきます。必要に応じ、学校の安全な水道水で水筒への補充を行っている状況で、給水スポットの整備については、今後検討したいと考えています。

【質】全小中学校への給水スポット設置を検討すべきだと考えますが見解を伺います。

【市長】子どもたちの熱中症対策としての給水スポットの導入については、衛生管理や設置に係る維持管理等の課題があるため、今後、近隣自治体

の事例を研究し、導入の可能性について前向きに検討していきたいと考えています。

○緊急避妊薬の市内提供体制の確保と若年層への支援について

【質】本年2月2日から薬局で緊急避妊薬の販売が可能となったが、2月20日時点で市内には販売店がない。この問題で最も苦しみ孤立するのは、未成年の子どもたちである。若年層への支援や提供体制確保の重要性についてどのようにお考えか伺います。

【子育て・こども課長】緊急避妊薬の使用については、未成年者が望まない妊娠を未然に防ぐことで未来を守る手段であり、市内における提供体制の確保は必要であると考えます。

現在、市内での緊急避妊薬取扱店はありますが、一部の薬局では、県の薬剤師会を通じて登録申請がされており、今後、市内での取扱店の登録、公表がされる見通しです。

【質】教育現場において、命の教育とセットとして、緊急的な回避方法をしつかりと伝えていただきたいと思いますが見解を伺います。

【学校教育課長】中学生までの性教育を含めた命の教育の指導内容に、万が一の緊急的な避妊方法の指導は含まれておらず、小中学校の教育での告知は難しいが、必要があれば、個別の指導や相談ができるため、配慮要件に留意し指導することが考えられます。

一般質問



神田 議員

○アジフライの聖地松浦の更なる知名度アップと世界進出について

【質】アジフライ聖地宣言後のふるさと納税額の推移について伺います。

【文化観光課長】令和元年度9億5839万円、2年度9億5696万円、3年度11億2182万円、4年度12億7277万円、5年度11億6772万円、6年度14億4902万円、7年度の見込みが18億5千万円となっています。

【質】アジフライ聖地宣言後にすばらしい効果が出ているが、今後の戦略をどのように描かれているか伺います。

【市長】今後も福岡都市圏を中心として関東・関西で活躍されている松浦アジフライ大使、松浦アジフライ実況レポーターと連携しながら、メディアとのタイアップによるプロモーションを強化し、更なる認知度向上に取り組みます。また、イタリア人の松浦アジフライ大使と連携し、EUをはじめとした海外展開を図り、国内で旺盛なインバウンド需要を取り込んでいきます。「アジフライの聖地」の更なる認知度向上の取り組みによって、本市の他の産品や歴史・文化の魅力を認知してもらうこ

とで、観光誘客の促進と、ふるさと納税を通じた物産振興など、本市の更なる活性化を図っていきたいと考えています。

○松浦産種雄牛「真乃介」「姫晴久」を活かした和牛振興について

【質】松浦産種雄牛の「真乃介」と「姫晴久」を活かした振興策、支援策をどのように考えているか伺います。

【市長】子牛の能力は種雄牛の能力に限らず、母牛の能力も大きく影響することから、「真乃介」と「姫晴久」の産子が雌として生まれた場合には母牛として残ることで、次に生まれてくる子牛に好影響を与え、安定した畜産経営につながると考えています。また、「真乃介」と「姫晴久」の血を引く雌牛たちが、来年、北海道で開催される全国和牛能力共進会の主役になってほしいと願っています。

そのためには、松浦産長崎和牛産地形成推進事業において、雌牛を残したり導入したりした場合に、これまでは増頭で最大30万円、更新では最大15万円の補助でしたが、「真乃介」と「姫晴久」の産子に限っては、令和8年度から更新でも最大30万円の補助を行うよう要綱を見直ししました。このことで、本市が和牛繁殖の産地として発展し、農家の所得向上、担い手の確保につなげたいと考えています。